２０１９０６２０　　原始林についての考察

１．おなじみの奈良春日山原始林は、奈良市の市街の東方に位置する原始林で約２５０ha の広さがある。
春日大社の神域として古より狩猟や伐採が禁止され、積極的な保護により原始性を保ってきた。

２．８４１年から樹木伐採が禁じられてきたため、森林が極相に達した原生林が広がっている。
主な樹種はナギ、ヤマモモ、シイノキ、アラカシ、ツクバネガシ、イチイガシ、カゴノキ、アオガシ、イスノキ、サカキ、クロバイなど、シイ、カシ類の常緑広葉樹で構成される照葉樹林である。

３．林中にはつる性植物も多く、とくにカギカズラの群生が多い。ほかにビナンカズラ、テイカカズラ、ゴトウズル、フジなども多い。シダの仲間、ヘラシダ、ウラジロなども多い。

４．このような暖地性の草本の中には温帯性のホオノキ、タラノキ、リョウブ、クマノミズキ、ウリハダカエデ、などの樹木が分布錯綜しており、林相的にも興味深いものがある。

５．市街地に近接して原生林が存在することは極めて珍しく、学術上の価値も高いところから、１９２４年（大正１３年）に国の天然記念物に、１９５５年（昭和３０年）２月に特別天然記念物に指定された。また１９９８年（平成１０年）１２月には、古都奈良の文化財の一部として世界遺産に登録された。

６．人の手が一度も入ったことのない森林を原始林というが、実際には人手が一度も入らない場所などほとんど存在しないから、まとまった伐採が行われたことがない、程度で考えるべきであろう。春日山のほか、日本国内にはいくつか「原始林」の名のもとに保護を受けている森林があるが、それらはすべて原生林であると見た方がよい。

・屋久島の屋久杉の大木やガジュマル林
・白神山地のブナ原生林、カツラ、ハリギリの大木林
・知床ノミズナラ、ダケカンバの大樹林
・福岡県古処山のツゲ原始林　　など

７．「原始林」は太古から人の手の全く入らない、自然のままの森林。もちろん台風が来れば、寿命何百年の大木も倒れて枯れるし、落雷があれば、大木も裂け、自然発火の山火事は、誰も消火しないので、自然鎮火まで燃え放題になる。動物も木の皮を食べ放題、鳥は木に穴をあけ放題。一度そうした自然災害や動物の食害などで、消失した森林は、永久に再生しない場合が多い。

８．これに対して「原生林」は、自然のままの森林を維持するため、人手の入った「疑似・原始林」である。原始林ではないが「原始林にちかい自然林」であって、消火作業や獣害対策だけでなく、間伐や場合によっては、枯れ木の除去なども含まれる。

９．春日山原始林と呼ばれているが、厳密な意味での原始林ではない。
１６世紀には豊臣秀吉によって、１万本のスギが植えられたり、台風で壊滅的な被害を受けた時には在来種が補植されたりして、ある程度手が加えられてきた経緯がある。

１０．ほのほかサカキやシキミなどは神事や仏事などに使われてきた木々で、原始林の歴史となじみが深い樹木であるが、ナンキンハゼ（トウダイグサ科）とナギ（マキ科）については、本来の植生にはない樹種といわれる。シカの食べない木であることなどから、生育範囲が拡大傾向にあり、森林生態系が変化してしまうことが危惧されている。

以上